

経営倫理（2020年度）シラバス 担当：國部克彦

<目的>

本講義は、通常の経営倫理の知識を提供することを目的とするのではなく、それを前提としたうえで、最も根本的なレベルでの経営における倫理の考え方を学ぶことを目的とする。本講義では、企業の倫理 (business ethics) ではなく、経営に關与する人間の倫理 (management ethics) という観点から、経済のロジックを超えた地点にある倫理を企業活動の中に反映させるためには何が必要なのかをレスポンスビリティ（責任）と価値創造の概念を軸に議論する。

<テキスト>

- ①國部克彦『アカウントビリティから経営倫理へ—経済を超えるために』有斐閣,2017年
- ②國部克彦他『創発型責任経営—新しいつながりの経営モデル』日本経済新聞出版社 2019年
- ③品川哲彦『倫理学入門』中公新書 2020年

<参考書>

國部克彦・神戸 CSR 研究会『CSRの基礎』中央経済社、2017年
高巖『ビジネスエシックス[企業倫理]』日本経済新聞出版社、2013年

<講義の進め方>

- ・テキスト③の知識を前提として講義を進めるので、開講までに通読しておくこと
- ・テキストの該当箇所を学習したうえで事前課題に取り組み、講義に臨むこと
- ・1コマ目を講義し、2コマ目を事前課題に基づくディスカッションとする。ディスカッションでは、オンライン講義の場合は、ブレイクアウトルームに分かれて議論してもらい、後に報告してもらう形式で実施する。

<評価方法> (合計：60点以上を合格とする)

- ①事前課題レポート : 10点×4回
- ②事後課題レポート : 60点

<事前課題レポートの提出の仕方>

4回の講義ごとの課題についてレポート（A4で1枚、1000字程度）を作成し、開講日の午前8時までに BEEF に提出する。ディスカッションでは、レポートを中心に議論するので、他の人と議論する前提でレポートを作成すること。

<事後課題>

あなたの所属する組織の倫理について、どのような課題があり、それはどのようにすれば改善できると考えるか。本講義で学んだことに触れながら 3000 字程度で論じよ。事前課題のレポートを改訂したうえで一部使用してもよい。

- ・提出日は別途指示する

<各講義の概要>

第1講 公と私の関係（テキスト①1章）（2月27日）

ビジネスにおける倫理問題はすべて経済と人間の関係から生じていることを、アーレントの公共性理論を導きの糸として学ぶ。経済がどのようにして社会を支配しているのかについて、経済の表現形式である会計の観点を意識して議論し、経済に対して人間を回復させる根拠としての経営倫理の役割を議論する。

事前課題：あなたが所属する組織のなかで、私的な問題と公共的な問題が対立した場合、それをアーレントの理論で解決に導くことは可能か。できるだけ具体的な事例に触れながら、可能とすれば、どのような解決策があるか、可能でないとすれば、なぜ不可能かを論じよ。

第2講 レスポンシビリティとしての責任（テキスト①2章，テキスト②1-3章）

（3月13日）

ビジネスの世界における責任はいかにあるべきか。なぜ不祥事はいつまでたってもなくなるのか。責任の本質的な理解をレヴィナスおよびデリダの責任論に求め、有限の責任であるアカウンタビリティを、組織のレベルでも、無限の責任であるレスポンシビリティへ転換することが可能かどうかを議論する。

事前課題：あなたの所属する組織に無限責任の原則を導入するとすれば、無限責任と有限責任をどのようにバランスすればよいか。具体的な事例に基づいて論じよ。

第3講 創発型責任経営（テキスト②全体）（3月20日）

無限責任を企業経営に応用すれば、どのような経営が可能になるのか。本講では、そのような企業モデルを「創発型責任経営」と名付け、その理論とケースを議論する。創発型責任経営のためのマネジメントプロセスやデザインについても検討し、既存の経営の中にどのように導入可能かを考える

事前課題：あなたの組織に創発型責任経営を導入するとすれば、どのようなプロセスが考えられるか。現状を分析したうえで、その意義と想定される効果と課題を論じよ。

第4講 価値創造と倫理（テキスト①3章，5章）（3月27日）

経営倫理は、組織の中の倫理ではなく、社会の倫理を組織の中で実践することである。そのためには、社会的課題としての価値創造が重要な役割を担う。価値創造の本質を議論したうえで、価値創造が倫理とどのように関係し、組織を改編する可能性があるのかについて、プラグマティズムの観点から議論する。

事前課題：あなたが、所属組織から社会的価値創造を命じられたら、どのような価値創造のプランを考えるか？具体的に提案せよ。

<講義担当者連絡先> kokubu@kobe-u.ac.jp